

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	らいく飯塚店(児童発達支援)
------	----------------

公表日 2025年 4月 1日

利用児童数 20人中

回収数 13

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13					適切であると考えています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13					適切であると考えています。余裕をもって関わられる人員を確保出来るようにします。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13					適切であると考えています。個々に合わせた配慮が出来ればと思っています。適切でない場合はお知らせください。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13					清潔を心がけていますが、掃除が行き届いていないことがあります。心地良く過ごせるよう心がけていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13					スタッフの専門性の向上も出来るように随時研修を受けています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13					2月よりホームページと待合室掲示板に掲載しています。確認をお願いします。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13					保護者様には常時相談を受け、個別支援計画作成まえにはアセスメントを行っています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13					個別支援計画(家族支援等は裏面)に記載しています。確認をお願い致します。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13					個別支援計画に沿って支援をしています。分かりにくい事がございましたら来つでもお聞きください。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13					児童の特性によって活動を固定することもあります。その場合はご理解頂けるよう事前に説明します。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	2	4		療育の特性上、地域の子たちとの交流は出来ていません。今後イベント等で交流の機会が作れるかを検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13					契約時に説明をさせてもらっていますが、改めて掲示していきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13					個別支援計画を作成した際に説明をしています。分からないときはお聞きください。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	1	1	研修会のポスターを提示して情報提供はされているようでした	見てもらうことで、また一緒に参加してもらうことで関わり方のヒントに思ってもらえればと思っています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	1				またペアレントトレーニングの外部の研修等の案内も掲示しますので確認ください。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2		1		随時相談を受け付けています。LINE等で利用出来ない時も相談ください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13					ありがとうございます。より共感できるよう、理解を深める研修を行っています。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1	3	2		父母の会、保護者会はありません。希望があれば、困り事を共有出来るように保護者同士が合う機会を作っています。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1		1		随時相談を受け付けています。LINE等でも受け付けていますので利用出来ない時も相談ください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	1				児童様には特性に合わせて関わり方の工夫をしています。保護者様にも出来るだけ安心して相談出来る関係を気づけるよう努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1		1	ホームページはあるが、定期的に発信されているか疑問です	ホームページに自己評価を乗せています。事業所での活動の様子はInstagramでしていこうと思います
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13					個人情報の取り扱いは十分に気を付けて取り扱っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初動マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	2		2	ちょっと分かりません	あらためて周知と、掲示をしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1	2	4	ちょっと分かりません	避難訓練はスタッフのみで行っています。非常時はスタッフの誘導に従ってもらえればと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			1		安全計画を作成しています。掲示しますので確認をお願いします。危ない場所等お気づきになりましたお知らせ下さい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		1	まだ事故や怪我をしていませんので、そのような経験はありません	保護者不在場面での事故はありませんでした。不在時は速やかに連絡出来る態勢を取れるようにします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13					ありがとうございます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13				とても楽しみにしています	ありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	13					ありがとうございます。これからも満足していただけるよう努力していきます。
その他	30	いつも楽しく通所しています。保育園が嫌でもらいくの日は行くと言ってくれます。いつもよりそって頂き感謝しています。成長と一緒に喜んでくれ、親としても気付かない部分が気付いたり子育てのヒントを頂けたりするので助かっています。					ありがとうございます。らいくは安心安全で、お子様にとって自分らしく入れる場所として、保護者様には相談出来る場所となれるように努力していきます。	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	らくい飯塚店(放課後等デイサービス)
------	--------------------

公表日 2025年 4月 1日
 利用児童数 2025年 3月 1日 45人中
 数 現在 回収数 29

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28			1		適切だと考えています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	28			1	子どもとの活動以外に遊び道具の準備などもあり大変だと思います。	適切だと考えています。ご心配ありがとうございます。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29				外玄関のタイルが割れていて雨の日などは少し心配です。	共有部になりますので、修理等の対応を会社をお願いしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	2			玄関のスリッパの所に外靴を入れるのが室内に汚れを持ち込まないか心配です。	ご指摘ありがとうございます。外靴とスリッパの場所を分けることを検討します。	
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29					スタッフの専門性の向上も出来るように随時研修を受けています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27			2		2月よりホームページと待合室掲示板に掲載しています。確認をお願いします。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29					保護者様には常時相談を受け、個別支援計画作成まえにはアセスメントを行っています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25			4		個別支援計画(家族支援等は裏面)に記載しています。確認をお願い致します。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27				2		個別支援計画に沿って支援をしています。分かりにくい事がございましたら来つでもお聞きください。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29						児童の特性によって活動を固定することもあります。ご理解頂けるよう説明します。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	10	5	9	4		現在、交流の機会は作れていません。イベント等で交流の機会が作れるか	
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27					契約時に説明をしています。あらためて掲示しますので確認をお願い致します。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28			1		個別支援計画を作成した際に説明をしています。分からないときはお聞きください。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	5	3	5		見てもらうことで、また一緒に参加してもらおうことで関わり方のヒントに思ってもらえればと思っています。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27				2	またペアレントトレーニングの外部の研修等の案内も掲示しますのでご確認ください。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	2		2		随時相談を受け付けています。来所が出来ない場合はLINEや電話等でも受け付けています。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28				1		共感的に支援が出来るよう、研修等で理解を深めています。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	8	3	7		集団活動を通じて母同士の繋がりはある	父母の会、保護者会はありません。希望があれば、困り事を共有出来るように保護者同士が合う機会を作っています。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	2		4	相談に対して傾聴していただけるの はありがたいが、他のアドバイスが 欲しいことがある。	適切なアドバイスが来ず申し訳あ りません。こちらでアドバイスが難 しい場合は外部機関や同じ悩みを持 つ保護者様との繋がりを作るなど出 来ますので相談ください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28			1		児童様には特性に合わせて関わり方の工 夫をしています。保護者様にも出来るだ け安心して相談出来る関係を感じて います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	7	1	5		ホームページに自己評価を乗せてい ます。事業所での活動の様子はイン スタグラムでしていこうと思いま
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28			1		個人情報の取り扱いは十分に気を付 けて取り扱っています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初動マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	3		10	よく知らないの	あらためて周知と、掲示をしていき ます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	8	1	9	知らないだけ？よく知らないの	避難訓練はスタッフのみで行ってい ます。非常時はスタッフの誘導に 従ってもらえればと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	1		3	よく知らないの	安全計画を作成しています。掲示します ので確認をお願いします。危ない場所等 お気づきになりましたお知らせ下さい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	1		9		保護者不在場面での事故はありません でした。不在時は速やかに連絡出 来る態勢を取れるようにします。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29					お子様だけでなく保護者様にとつ ても安心出来る場所になれるように努 力していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	29				とても楽しみにしています。	ありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28	1			満足しています。	ありがとうございます。 これからも満足いただけるよう支援 していきたいと思えます。
そ の 他	30	個別療育(当事者本人)に加え、家族のサポートをしていただく事が増えています。学校や家庭での出来事にいつも寄り添い時には利用時だけでなくも電話やSNS(LINE)で相談にのっていただき大変助けられています。LINEでの連絡が助かっています。生活の一部として毎週楽しみにしています。どの先生にもなついており安心感、信頼感を持って接しています。いつもご支援ご指導ありがとうございます。通所、季節のイベント、手製の様々な道具の用意などいつも楽しみに通っています。うちの子どもにとって思いっきりわがままを聞いてもらえる安心の場所のようです。感謝しています。子どもの目線を持ち、ていねいに接して下さるスタッフの方がほとんどです。ここでは、子どもが安心して安全に過ごせる様これからもあたたかいご支援をお願いしたいです。					ありがとうございます。 イベント等ではこちらも初めてのこ とが多く、不手際もあり申し訳あり ません。今後も、お子様の成長に繋 がるように支援していきますので宜 しくお願い致します。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	発達支援ルームらいく飯塚店(児童発達支援)				公表日	R7年 4月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		児童の特性に合わせて環境調整を行っている。	適切である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		怪我の危険性のある児童に対しては対応するスタッフを追加するなどしている。	適切である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		運動と学習をする場を分けている。児童の特性や目的に合わせて環境調整をしている。	より分かりやすく特性に配慮した環境を作る。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			施設が古く、また療育器具の劣化も見られる。機器等の修理や交換を検討する。他事業との共有部が汚れやすい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別での対応を主としている。必要であれば一人落ち着く環境を作っている。	一人になれる場所、カムダウンスペースを作るか検討する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	ミーティングを行い、業務や個々の役割を確認している。	周知出来ていないものがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			自己評価アンケート以外にも保護者の意向を把握する機会を作る。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	ミーティングや個人面談で意見を聞く機会を設けている。	継続力がない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		第三者による外部評価はしていない。必要であれば検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	法人内での内部研修。個々の資質の向上を図る為の研修を受けられるように調整している。	年間での研修計画を立てる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		2月よりホームページ、待合室掲示板に公表している。	他の情報と合わせて掲示方法を検討する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		個別支援計画を作成する前に、アセスメントを行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画案を作成後意見をもらっている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画に沿って行われている。	より具体的な目標設定にする。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		特性を理解するための評価ツール、また行動観察を記録として残している。	より具体的な評価ツールを検討する。また定期的に評価を行う。
	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個別支援計画に記載している。	個々に合わせた具体例も表記していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	主に個別で考える。担当制ではない為、多職種で関わるようにしている。	目的に沿った立案をそれぞれの職種でのアプローチをする。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		多職種で関わるようにしている。それぞれのアプローチ評価をしているので固定はない。ただし特性により固定する場合はある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		主に個別で評価を行い、必要な場合、希望がある場合には集団を行っている。集団は預かり型と連携をしている。	小集団機会が少ない。 イベントなどで機会を作っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		打ち合わせを行い、状況に合わせての対応を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	記録で共有している。当日中の振り返りは難しいが、困難事例は共有している。	当日は出来ていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の活動や保護者からの聞き取り内容を記録し残している。スタッフには細かく記録が出来る時間を与えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		利用児童が多い為、期間を決めて行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達管理責任者、専門職、関わりの方の長いスタッフが参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	地域の保健士、心理相談等や保育園小学校と積極的に連携を取っている。	送迎をしていないので学校との連絡を密にするタイミングが少ない。連携方法を考えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		保育園や学校との情報共有を行っている。	連携を強化し、集団での苦手を出るように取り入れていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報共有だけでなく、情報提供書等を作成し共有出来るようにしている。	情報提供書等の作成が出来ることを口頭だけでなく掲示で案内していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	併用している児童に関しては、情報共有するなどを行っている。その他、地域の心理相談や保健師さん等と出来るだけ連携はするようにしている。	常に情報共有出来るように各関係機関との連携方法を確認する。関係構築を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		交流機会は出来ていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		情報共有しながら活動を行っている。お子様の調子に合わせた活動提供を行っている。	保護者が来られない場合は、LINEなどのツールを使って情報共有する。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	保護者に取り組み内容を見せられ、関わり方等のヒントにもらっている。	家族参加の研修は出来ていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		運営規程は待合室に提示している。支援プログラムも2月より掲示している。	掲示と改めて周知していく。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		保護者にアセスメントを行うようになっている。	児童自身にも目標設定が出来るようにする。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		説明を行い同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		毎回、活動報告のほかに相談も聞く機会を作っている。その他、電話やLINE等でも受け付けている。	助言が難しい場合に適切な機関を紹介する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	保護者同士をつなげる場を設けている。	保護者会はない。父母の会への参加、保護者会の開催も検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情相談受付の掲示をしている。	苦情を受け付ける際の保護者の個別対応が出来る空間がない。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		行事の際はインスタグラムで発信出来ている。	定期的に更新が出来ていない。活動内容等が分かるような発信をしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		記録はパソコンや鍵のかかる書庫に保管している。会話の中でも個人情報については留意している。	職員室に誰でも入れる空間ではある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		行動を言語化することで児童自身や保護者の理解に繋げている。	意思決定支援についての研修を受ける。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	保健師、相談支援員さん等はいつでも来所出来る環境ではある。	療育の形態上地域との交流は出来ていない。イベント等で交流機会を創出できるか検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	年度替わりに担当職員を変更している。	保護者に周知出来ていないものもある。掲示して周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	業務継続計画（BCP）を策定している。定期的に避難訓練を行っている。	非常時の対応を改めて確認し共有する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		来所時に体調等を保護者と共有している。	てんかんや、服薬のある児童を改めて確認する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	クッキング時は保護者にアレルギーの有無を確認して行うようにしている。またアレルギーに関しての研修を受けている。	アレルギーについての理解が乏しい。アレルギー研修を毎年受けるようにする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成しています。	安全計画を掲示し共有出来るようにする。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			安全計画を掲示し取り組み内容等を共有出来るようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		怪我の恐れのある児童にはスタッフを増やして対応している。	大きな怪我はなかったが、ヒヤリハットに繋がる場面は多くあった。より意識を高められるようにヒヤリハットを軽度の事でもあげるようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		時期を決めて研修を行っている。定期的に委員会を開催している。	研修計画を改めて確認をする。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。	現在身体拘束が必要なケースはないが、もし必要な場合は適宜委員会を開催し組織としてどういう対応をするかを検討する。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルームらいく飯塚店(放課後等デイサービス)			公表日		2025年 4月 1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		7		児童の特性に合わせて環境調整を行っている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		7		怪我の危険性のある児童に対しては対応するスタッフを追加するなどしている。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7		運動と学習をする場を分けている。児童の特性や目的に合わせて環境調整をしている。	より分かりやすく特性に配慮した環境を作る。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7			施設が古く、また療育器具の劣化も見られる。機器等の修理や交換を検討する。他事業との共有部が汚れやすい。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7		個別での対応を主としている。必要であれば一人落ち着く環境を作っている。	一人になれる場所、カムダウンスペースを作るか検討する。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		6	1	ミーティングを行い、業務や個々の役割を確認している。	周知出来ていないものがある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6			自己評価アンケート以外にも保護者の意向を把握する機会を作る。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	1	ミーティングや個人面談で意見を聞く機会を設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	3		第三者による外部評価はしていない。必要であれば検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6	1	法人内での内部研修。個々の資質の向上を図る為の研修を受けられるように調整している。	年間での研修計画を立てる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		7		2月よりホームページ、待合室掲示板に公表している。	他の情報と合わせて掲示方法を検討する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		7		個別支援計画を作成する前に、アセスメントを行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		7		計画案を作成し回覧し意見をもらっている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		7		計画に沿って行われている。	より具体的な目標設定にする。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		7		特性を理解するための評価ツール、また行動観察を記録として残している。	より具体的な評価ツールを検討する。また定期的に評価を行う。	
	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		7		個別支援計画に記載している。	個々に合わせた具体例も表記していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5	1	主に個別で考える。担当制ではない為、多職種で関わるようにしている。	目的に沿った立案をそれぞれの職種でのアプローチをする。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		多職種で関わるようにしている。それぞれのアプローチ評価をしているので固定はない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		主に個別で評価を行い、必要な場合、希望がある場合には集団を行っている。集団は預かり型と連携をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		打ち合わせを行い、状況に合わせての対応を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	記録で共有している。当日中の振り返りは難しいが、困難事例は共有している。	当日は出来ていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の活動や保護者からの聞き取り内容を記録し残している。スタッフには細かく記録が出来る時間を与えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		利用児童が多い為、期間を決めて行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達管理責任者、専門職、関わりの長いスタッフが参加している。出来るだけ出席できるよう調整をしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	地域の保健士、心理相談等や保育園小学校と積極的に連携を取っている。	送迎をしていないので学校との連絡を密にするタイミングが少ない。連携方法を考えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		保育園や学校との情報共有を行っている。	連携を強化し、集団での苦手を出来るように取り入れていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報共有だけでなく、情報提供書等を作成し共有出来るようにしている。	情報提供書等の作成が出来ることを口頭だけでなく掲示で案内していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	併用している児童に関しては、情報共有などを行っている。その他、地域の心理相談や保健師さん等と出来るだけ連携はするようにしている。	常に情報共有出来るように各関係機関との連携方法を確認する。関係構築を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		交流機会は出来ていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		情報共有しながら活動を行っている。お子様の調子に合わせた活動提供を行っている。	保護者が来られない場合は、LINEなどのツールを使って情報共有する。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	保護者に取り組み内容を見せられ、関わり方等のヒントにもらっている。	家族参加の研修は出来ていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		運営規程は待合室に提示している。支援プログラムも2月より掲示している。	掲示と改めて周知していく。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		保護者にアセスメントを行うようにしている。	児童自身にも目標設定が出来るようにする。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		同意を得ている。作成に際してアセスメントを残すようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		毎回、活動報告のほかに相談も聞く機会を作っている。その他、電話やLINE等でも受け付けている。	助言が難しい場合に適切な機関を紹介する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	保護者同士をつなげる場を設けている。	保護者会はない。父母の会への参加、保護者会の開催も検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情相談受付の掲示をしている。	苦情を受け付ける際の保護者の個別対応が出来る空間がない。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		行事の際はインスタグラムで発信出来ている。	定期的に更新が出来ていない。活動内容等が分かるような発信をしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		記録はパソコンや鍵のかかる書庫に保管している。会話の中でも個人情報については留意している。	職員室に誰でも入れる空間ではある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		行動を言語化することで児童自身や保護者の理解に繋げている。	意思決定支援についての研修を受ける。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	保健師、相談支援員さん等はいつでも来所出来る環境ではある。	療育の形態上地域との交流は出来ていない。イベント等で交流機会を創出できるか検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		年度替わりに担当職員を変更している。	保護者に周知出来ていないものもある。掲示して周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	業務継続計画（BCP）を策定している。定期的に避難訓練を行っている。	非常時の対応を改めて確認し共有する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		来所時に体調等を保護者と共有している。	てんかんや、服薬のある児童を改めて確認する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	クッキング時は保護者にアレルギーの有無を確認して行うようにしている。またアレルギーに関しての研修を受けている。	アレルギーについての理解が乏しい。アレルギー研修を毎年受けるようにする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成しています。	安全計画を掲示し共有出来るようにする。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			安全計画を掲示し取り組み内容等を共有出来るようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		怪我の恐れのある児童にはスタッフを増やして対応している。	大きな怪我はなかったが、ヒヤリハットに繋がる場面は多くあった。より意識を高められるようにヒヤリハットを軽度の事でもあげるようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		時期を決めて研修を行っている。定期的に委員会を開催している。	研修計画を改めて確認をする。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。	現在身体拘束が必要なケースはないが、もし必要な場合は委員会を開催し組織としてどういう対応をするかを検討する。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らそうむ発達支援ルームらいく飯塚店(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

分

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別での療育を行っていること。	個別で行うことで、児童の発達に合わせたアプローチが出来る。児童のペースを尊重し、気持ちの切り替えの時間、考える時間を与えるようにしている。苦手な事には出来ることから段階的に難易度をあげていくことで自信をなくさないようにしている。	より詳しい評価スケールを用い、保護者や地域の集団と共有出来るようにする。関係機関で情報共有しやすい環境を整える。
2	保護者にも療育を見学してもらっている。	保護者に活動を見学してもらうことで声のかけ方、タイミング等お子様との関わり方のヒントにもらっている。また常に相談を受けられるようにしている。	相談に対してより満足いただける回答が出来るよう研修を受けていく。
3	集団療育との連携をしている。 相談支援員さん、保育園、他デイサービス等の外部が入りやすい環境を作っている。	集団療育と併用している児童が多いため、情報共有等の連携を取りながら療育を行っている。集団療育の様子を見ることで、集団生活の困り事を把握し、個別で取り入れている。	継続して他機関との連携を強化し一体となった療育が出来る体制を作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若いスタッフが多い。	危険予測に対する予知が弱く、事前の対応が出来ていないことがある。 保護者の子育ての悩みに対する共感する力が弱い。	ヒヤリハットを軽度のものから提出するようにして、危険予測に対して意識を高めていく。 当事者の気持ちを聞く機会を作る。面接技法の研修を受ける。
2	マニュアルを作成しているが周知出来ない。	契約時に説明をしたり、作成時に掲示しているが保護者様の目に入っていないことがアンケートで分かった。	目に入りやすい壁面を利用し、それぞれが分かりやすいように掲示をしていく。
3	地域との関わりがない。	個別療育という特性上、地域との関わりを作ることが出来ない。	地域の児童さん等が参加出来るイベントを企画する。 その他、地域との関わりが出来る活動を考える。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らそうむ発達支援ルームらいく飯塚店		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別での療育を行っている。	個別で行うことで、児童の発達に合わせたアプローチが出来る。児童のペースを尊重し、気持ちの切り替えの時間、考える時間を与えるようにしている。苦手な事には出来ることから段階的に難易度をあげていくことで自信をなくさないようにしている。	より詳しい評価スケールを用い、保護者や地域の集団と共有出来るようにする。関係機関で情報共有しやすい環境を整える。
2	保護者にも療育を見学してもらっている。	保護者に活動を見てもらうことで絵のかけ方、タイミング等お子様との関わり方のヒントにしている。また常に相談を受けられるようにしている。	相談に対してより満足いただける回答が出来るよう研修を受けていく。
3	集団療育との連携をしている。 相談支援員さん、保育園、他デイサービス等の外部が入りやすい環境を作っている。	集団療育と併用している児童が多いため、情報共有等の連携を取りながら療育を行っている。集団療育の様子を見ることで、集団生活の困り事を把握し、個別で取り入れている。	継続して他機関との連携を強化し一体となった療育が出来る体制を作っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若いスタッフが多い。	危険予測に対する予知が弱く、事前の対応が出来ていないことがある。 保護者の子育ての悩みに対する共感する力が弱い。	ヒヤリハットを軽度のものから提出するようにして、危険予測に対して意識を高めていく。 当事者の気持ちを聞く機会を作る。面接技法の研修を受ける。
2	マニュアルを作成しているが周知出来ない。	契約時に説明をしたり、作成時に掲示しているが保護者様の目に入っていないことがアンケートで分かった。	目に入りやすい壁面を利用し、それぞれが分かりやすいように掲示をしていく。
3	地域との関わりがない。	個別療育という特性上、地域との関わりを作ることが出来ていない。	地域の児童さん等が参加出来るイベントを企画する。 その他、地域との関わりが出来る活動を考える。